

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	くろかみ学園児童発達支援センター		
○保護者評価実施期間	令和 7年 1月 10日		～ 令和 7年 2月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	68	(回答者数) 62
○従業者評価実施期間	令和 7年 1月 7日		～ 令和 7年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 23
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 4日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援に課題が発生した時に、すぐに支援の振り返りをチームで行う体制が出来ているところです。	課題に対してどのような解決策があるかを、職員ひとり一人が意識して提案しています。	職員の経験年数などで、支援技術や利用者様との信頼関係に差があるため、研修への参加や信頼関係の構築に努めます。
2	児童発達支援事業から継続して利用される利用者様が多いことで、利用当初から安心して利用して頂ける環境があることです。保護者様の心配ごとに対しても継続して相談に応じることが出来ることです。	同じ建物内であっても事前に放課後等デイサービスの棟を見学して頂き、利用者様・保護者様に見通しを持って利用して頂けるように配慮しています。	利用者様の年齢が幅広く発達特性が異なることで、利用開始時は不安を感じる利用者様も多いです。令和7年4月に主に地域の学校に通学する小学生を対象とした新規放課後デイを開設することにしました。また、センターでは活動班を分けるなどの配慮を継続して行っています。
3	平日のサービス提供時間は、手厚い職員配置をしていることです。基準は5:1ですが、実際は2.5:1程度の職員配置をしています。	毎回その日のチーフが、どの職員がどの利用者様を支援するのかを決めています。利用者様の状況に応じて、必要な支援体制が取れるよう取り組んでいます。	1日利用日には、休憩回しの時間帯などで配置が薄くなる場合があります。職員募集をおこない、更なる充実に取り組んでいます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	学校休業日など1日利用日で、児童発達支援事業と並行してサービスを提供する日には、職員配置が厳しいことです。	多機能型として運営していることが要因です。また、職員の経験年数等に差があり一人でも把握が上手できる職員と、まだ難しい職員がいることも要因です。	職員ひとり一人の支援技術のレベルアップに取り組んでいます。職場内OJTを取り入れ、向上心を持って支援に取り組める環境作りを努めます。
2	送迎サービスを、主で送迎を担当する職員が行うことが多い為、保護者様との情報共有が難しい点です。	多機能型として運営し、サービス提供時間帯に職員配置を厚くしているため、送迎サービスの時間帯まで多く職員を配置するのが困難なことが要因です。	サービス提供中に怪我やいつもと異なる状況があった場合には、直接又は電話にて状況の報告をするように努めています。
3	契約者が多く、新規の利用者様の受け入れ枠が少ない為、利用制限(週〇回までなど)をしていることです。	地域課題でもあると考えています。放課後デイの利用を希望する利用者様に対して、地域の事業所の資源が不足していることが要因です。	利用の制限はありますが、利用を希望する利用者様の受入れは出来るだけ行う様にしています。放課後児童クラブへの移行や社会資源を利用して放課後の時間が過ぎる様に、移行支援にも力を入れています。